

平成25年度がスタート

年度が替わり、最初の行事となる第1回理事会が1月14日成人の日に開催された。尾崎理事長体制2年目となる平成25年度がスタートし、今年度進む方向を協議した。



第1回理事会で今年度の進む方向を協議

新年会で今年の抱負を述べる尾崎理事長



全国からの参加者でうる会場



恒例の福引、じゃんけんゲームで争奪戦

日本篆刻家協会会報

第10号 平成25年3月31日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852 FAX072-760-3853
E-mail: info@n-tenkoku.jp
http://www.n-tenkoku.jp

引き続き全国各地からの会員が一堂に会する新年会が、大阪市中央区の錦城閣で開催され二〇五人が参加し親交を深めた。

これからの計画と展望

理事長 尾崎蒼石

本協会も明年は創立三〇周年を迎えます。そして、更に発展を期すべく各種方策を考えております。

まず、三〇周年記念事業として現在進行中のものとしては、篆社時代から現在までの「印人伝」を出版計画があります。これに関しては現在特別チームを編成して調査を開始しているところです。加えて、中国各地との交流史、各地の巡回展、各地印社の歴史や出版物などの調査も進行中です。ご協力のほどお願いする次第です。

また、現在進行中の計画を示しておきます。

昨夏の第五回中央研究会で取り上げた「篆書の研究」は、出席者の好評を博し、本年度の第六回中央研究会でも引き続き計画しておりますが、二十九回展の特別展観でも「殷周秦三代の文字」として古代の篆書資料を展観いたします。篆刻の研究には篆書は欠くことのできないもので、折りにつけ研究しなければならぬと考えています。

若い人達に篆刻の魅力を知っていただくために、明年の第三〇回展より「小中学生篆刻公募」を行うべく、現在計画中です。要項等が決まり次第みなさまにお知らせいたします。会員のみならずご協力をお願いします。

総会で事業計画案を発表する井谷副理事長



総会に先立つ第2回理事会



全国からの会員が参集した総会の審議の様子

二十五年度総会開催

平成二十五年度総会が二月十日、ホテル大阪ベイタワーで開催され、全国各地から役員、会員計二〇一人が参加した。

総会に先立つて企画委員会、第二回理事会が開かれ、尾崎理事長体制の二年目を迎え、今後の協会の運営について協議された。

午後二時からの総会は、尾崎理事長が議長を務め議事が進められた。平成二十四度事業報告、同決算報告、同会計監査報告、平成二十五年度事業計画案、同予算案が提案されいづれも原案通り承認決定された。三ページ別表のとおり役員が承認された。例年の事業に加えて、東日本大震災復興支援のため当協会、全日本篆刻連盟など主な篆刻団体が合同して「がんばろう東北篆刻展」を盛岡市で開催する計画が尾崎理事長から発表された。また、本年は、以前から交流している中国の西泠印社が創設一一〇周年にあたることから関連行事に参加する形での海外交流を行う計画を検討していることなど井谷副理事長から報告された。

総会に引き続き講演会が開催された。講師は山下方亭常任顧問、「尊



講演する山下方亭常任顧問

舞閣コレクション「明刀に始まった」と題して、「戦国時代の刀子セットからスタートしたコレクションの展開が現物の展観、まつわるエピソードとともに紹介された。続いて午後四時から懇親会が開催された。和気藹々とした雰囲気、全国各地からの参加者は交流を深め合っていた。



お持ちいただいた尊舞閣コレクションの一部を鑑賞



大勢の参加者でにぎわう懇親会



あいさつする尾崎理事長

平成二十五年役員一覧

- 【常任顧問】 山下方亭
- 【理事長】 尾崎蒼石
- 【副理事長】 井谷五雲
- 【代表理事】 市川両僊 喜多芳邑 酒居石莊 小朴圃
- 【名誉理事】 久米義山 小林睦水 駒形蒼岳 田中緑翠
- 【常務理事】 伊佐治祥雲 石原豊玉 出田塘殿 伊藤雅夫
- 黒田玉洲 黄平齋 榊原晴夫 佐川大羊
- 武井岳峰 堤白遊 中村葉舟 南岳泉露
- 長谷川煥海 古溝幽畦 松本雅至 御手洗眉山
- 【参事】 師子堂房翠 高橋北照 二六碧舟
- 【理事】 足立瑞泉 池田泥真 射場少藍 遠藤孝子
- 大田桂翠 小上玉齋 奥田晨生 梶川久美子
- 梶田福州 加納孝志 北室南苑 木村容庸
- 草田翠苑 熊本晴文 輿水泥魚 坂本舜華
- 関踏青 田中修文 出来芳草 永井龍法
- 早川聴芬 東尾高岳 平松晃一 広瀬大濤
- 松本翠女 松本岬風 武藤白碩 吉江翠光
- 米田黄苑
- 【参与】 荒崎淨仙 石川思玄 稲葉竹葉 今西九郎
- 太田華香 大槻彦喬 加藤静雲 川越汎舟
- 川西卯水 楠土翠 澤田善石 重原祥雲

- 清水抱石 白尾芳雲 杉本素月 関野羊越
- 多田学友 田中九成 丹下青風 豊田恵山
- 西田茜秋 林旦山 藤田孝風 松岡惣雲
- 松田泰軒 水上健治 森豊苑 森川恵扇
- 山崎一雄
- 【評議員】 青木麗代子 浅野江涯 浅野春泉 浅野祥雲
- 浅野和泉 浅良朱華 阿部祥廬 天野心淵
- 池田蘆翠 井後雅堂 石亀明峯 石原雲木
- 伊藤錦汀 伊藤梅香 稲垣華扇 今村董圃
- 上田静雲 上松莊夢 宇於崎峯 内田真弓
- 梅原玉翠 大橋安泰 大村雪陵 岡田桂舟
- 小川匪石 片畑仁美 加藤正順 川崎白水
- 川村碧仙 岸村爽風 北田成磊 北野河聲
- 橋高香流 木本研塵 串田一逕 國方得仙
- 久保南芳 後藤藤太郎 嵯峨洛山 酒井好雨
- 坂上香艸 阪口香雪 渋谷春好 下井嶂葉
- 正和香葉 鈴木紀山 関田幹雄 鷹取千豊
- 高野弘深 竹内立女 武友早知子 多田稔里
- 巽聖石 田中翠仙 田中瑞峰 田原呉山
- 千蔵天空 寺田和仁 寺田瀧雲 寺本翠葉
- 土井純司 桃睦苑 得永春水 戸出九廬
- 中島大夢 中林千影 仲森蓬園 名倉克彦
- 滑田寒鴉 西浦壽碩 西口青咲 庭田露舟
- 長谷川拓石 島穆風 畑間青露 服部九姚
- 花村秀嶽 原田恵苑 坂正歩 坂東香璋
- 廣田佳苑 藤川曼美恵 藤縄尚子 藤村香代子
- 古瀬章石 古野燕安 干田耕翠 堀口秀雄
- 本郷紫香 牧野象山 増田繁治 松井翠香
- 松田静石 松本清苑 水巻游光 南輝代
- 南敏子 村田祥風 桃井泰道 山田青溪
- 山根容園 山室雅美 山本恵子 山本寿法
- 山谷加津子 横井青蓮 横山龍児 吉田雅風
- 吉田宗里 渡部芳月 渡辺北舟

東日本大震災復興支援 がんばろう東北篆刻展

理事長 尾崎蒼石

「がんばろう東北篆刻展」の開催は三日間ですが、協会所属の会員はもとより、沢山の方に盛岡に行っていただき、復興支援にご協力頂きますようお願い申し上げます。なお、この時期に合わせ、岩手県立博物館に所蔵されている太田夢庵の古銅印コレクションの一部を鑑賞できるよう、現在交渉中です。また、記念レセプションを計画しています。六月二日(日)午後五時から、会場・会費等未定ですが決定次第出品者にお知らせいたします。

展覧会鑑賞は協会として旅行企画はいたしませんので、各印社単位または個人でご参加ください。

何卒ご協力の程お願い申し上げます。

開催要項(抜粋)

【目的】 日本を代表する篆刻家の作品や、近現代の名家の書画などを東北の地で展覧し、地元の愛好家に親しく鑑賞してもらう機会を設定する。

地元の篆刻家と連携して、篆刻の普及発展に寄与するとともに、東日本大震災で被災した東北の復興を支援する活動を展開する。

【主催】

がんばろう東北篆刻展実行委員会
(全日本篆刻会 日本篆刻家協会 岩手篆刻協会)

【会期】

五月三十一日(金)～六月二日(日)
 一〇時～十七時(最終日は十六時まで)

【会場】

盛岡市民文化ホール
 マリオス四階展示ホール(盛岡駅隣接)
 盛岡市盛岡駅西通二・九・一

【出品者】

各団体三〇～八〇名を選抜。総計二〇〇人前後を想定。
 本協会からは第二十九回日本篆刻展に出品の理事以上の軸装作品を出品。

【特別企画】

本展の開催と併行して次の特別企画を実施する。

A 書画の展覧

- ・日本近現代の篆刻家の書画(三〇点前後)を陳列紹介する。
- ・作品は出品者の収蔵品を選定する。

B 成語印の展示即売

- ・趣旨に賛同する出品者有志の刻印(成語印、肖形印など遊印として使用可能なもの。素材、形式随意。一寸角以内)を陳列し、希望者に特別頒布して収益は義損金として復興支援に充てる。

C 太田夢庵旧蔵古銅印鑑賞

- ・岩手県立博物館所蔵の夢庵コレクションを特別鑑賞する

六月二日(日) 十三時三〇分～十五時

※詳細は未定

九月課題

「盈盈秋水」

役員(尾崎蒼石選)



繁治



踏青



睦苑



泰軒



穆風

常任委員(伊藤雅夫選)



博石



早知子



蘇碩



汀華



見聲

委員(黒田玉洲選)



芳泉



道男



正明



敬次



笙山

會員(黃平齋選)



千鶴



智香



蘆山



泰久



彌太彦

一般(榊原晴夫選)



公一



之信



鈴輪



幽篁



溪州

役員(井谷五雲選)



立女



且山



踏青



米子人



祥鳳

常任委員(佐川大羊選)



拓石



智舟



汀華



韶嘩



澄子

委員(南岳泉靈選)



平峰



久利江



笙鶴



墨石



道男

會員(武井岳峰選)



葭舟



千鶴



梅風



康生



浩三

一般(堤白遊選)



幽篁



凌峰



智子

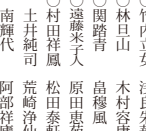


顔了

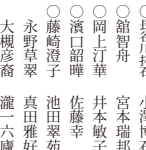


三嘉

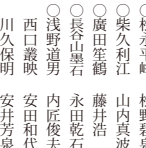
役員(浅野祥雲選)



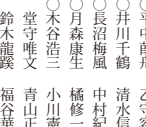
浅野祥雲



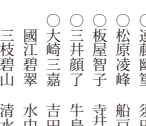
谷啓子



矢田高秋

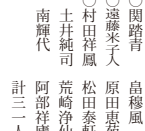


大野勝山

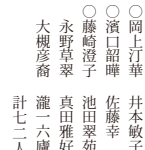


須田桃苑

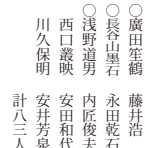
常任委員(小澤博石選)



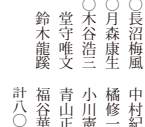
小澤博石



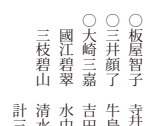
宮本瑞邦



松野碧泉

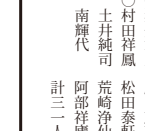


須田桃苑

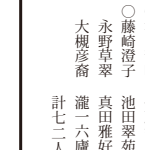


須田桃苑

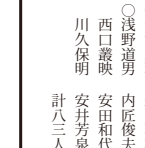
委員(奥島櫻浦選)



奥島櫻浦



乙守啓子



清水信昭

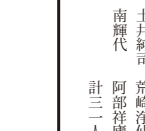


中村紀久

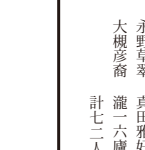


寺井久美子

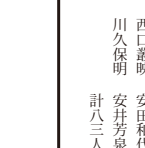
會員(奥島櫻浦選)



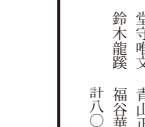
奥島櫻浦



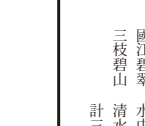
板屋智子



寺井久美子



牛島鈴輪



牛島鈴輪

十月課題

「木鷄」

十一月課題

「皆大歡喜」

役員(大村高稜選)



杏葉



章石



踏青



弘深



輝代

常任委員(中村葉舟選)



彦裔



游魚



九成



翠嶺



敏子

委員(長谷川帰海選)



芳泉



乾石



道男



雄山



究石

會員(古溝幽畦選)



極浦



龍生



龍泉



正男



裕進

一般(松本雅至選)



勝山



一哉



智子



久美子



碧山

役員(平田蘭石選)



立女



桂舟



青露



克彦



踏青

常任委員(御手洗眉山選)



翠嶺



汀華



神丘



知洲



游魚

委員(保田昌石選)



平峰



宝樹



碧泉



芳泉



道男

會員(伊佐治祥雲選)



公子



行石



紀久



育治



蘆山

一般(石原豊玉選)



幽篁



碧翠



陽一



弘子



登

十二月課題

「癸巳」

役員(大村高稜選)



杏葉



章石



踏青



弘深



輝代

常任委員(中村葉舟選)



彦裔



游魚



九成



翠嶺



敏子

委員(長谷川帰海選)



芳泉



乾石



道男



雄山



究石

會員(古溝幽畦選)



極浦



龍生



龍泉



正男



裕進

一般(松本雅至選)



勝山



一哉



智子



久美子



碧山

役員(平田蘭石選)



立女



桂舟



青露



克彦



踏青

常任委員(御手洗眉山選)



翠嶺



汀華



神丘



知洲



游魚

委員(保田昌石選)



平峰



宝樹



碧泉



芳泉



道男

會員(伊佐治祥雲選)



公子



行石



紀久



育治



蘆山

一般(石原豊玉選)



幽篁



碧翠



陽一



弘子



登

一月課題

「獻淑祥」

役員(真鍋井蛙選)



踏青



静雲



祥風



敏子

常任委員(山田塘霞選)



芳泉



博石



韶暉



誠峯



平峰

委員(伊藤雅夫選)



静二



忠義



剛志



登雲



碧水

會員(黒田玉洲選)



功勝



博則



信夫



智香



極浦

一般(黄平齋選)



顔了



勝竹



幹男



鈴輪



勝山

二月課題

「一樹百穫」

役員(市川兩儀選)



踏青



拓石



祥風



早知子



芳月

常任委員(神原晴夫選)



弘碩



紳丘



進



碧泉



博石

委員(佐川大羊選)



明可



叢映



忠義



究石



紅絲

會員(南岳果露選)



雅子



一竿



悅治



教行



清光

一般(武井岳峰選)



勝山



智子



碧翠

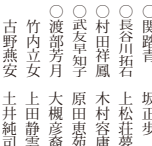


靖武

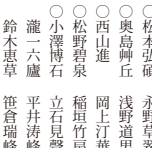


溪州

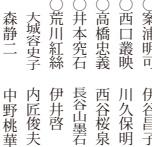
役員(増田繁治選)



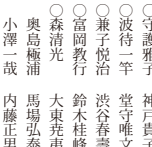
勝山



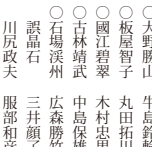
智子



碧翠

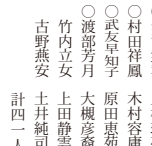


靖武

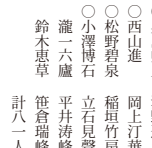


溪州

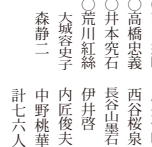
常任委員(宮本瑞邦選)



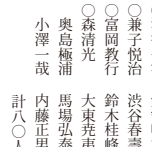
勝山



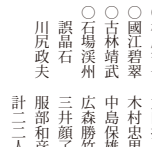
智子



碧翠

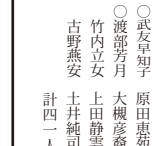


靖武

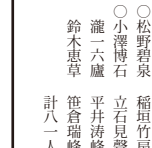


溪州

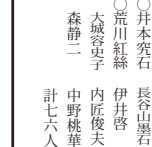
委員(岡田泰道選)



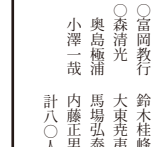
勝山



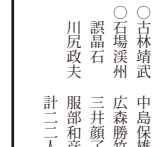
智子



碧翠

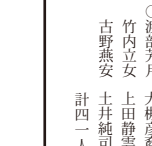


靖武

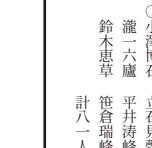


溪州

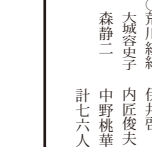
會員(高木啓志選)



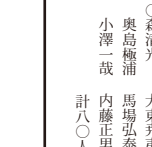
勝山



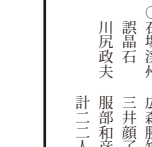
智子



碧翠



靖武



溪州

一般(神戶貴子選)



勝山



智子



碧翠



靖武



溪州



⑭ 轉識 吳昌碩



⑮ 竹洞農 吳昌碩



⑯ 吳昌石 吳昌碩



⑰ 萬釗 吳昌碩



⑰



⑱



※



(前号からつづき)

次に姓名字号に「刻」などを付した例を挙げてみる。⑭は「刻」⑰「井蛙刻」などとよく使用する例である。⑮は作。⑯は「阿倉所作」「阿倉は吳昌碩の字であるが梅先生はよく阿梅と称された。青山杉雨先生(本名文雄)にも「阿文」の印が数顆あり阿倉には親しみの気持ちであらわして、人を呼ぶ言葉につく接頭辞。魏・晋以降多く使用された。もと江南地方の方言で「阿兄」(兄さん) 阿母(かあさん)といった具合である。さしずめ私なら「阿昌」まさおちゃんぐらいの意である。吳昌碩が晩年次のごとき側款を残しているのでここに揚げておく。私なれば「阿蛙」「阿昌なんと」「ゴロの悪(こと)」

※

〔小名郷阿姐〕
老任小名郷阿姐。幼時族中父老。嘗呼之以媿。今不可復聞矣。追憶刻此乙卯冬。年七十有一。
〔意味〕
私の小名は郷阿姐といひ、幼い時族中の先輩からこう呼ばれ可愛がられた。今になつてはもうこう呼ばれることもなくなり、昔を思い出しながらこの印を刻した。乙卯冬。年七十有一。

所作は作るためのもの。「阿蛙作」⑱「阿昌所作」と款すればよい。⑰の「倉石重作」は重ねて作るの意。この印は右上に



② 蒼石 吳昌碩



① 徐子靜段觀 吳昌碩



⑩ 葵右年 黃牧甫



⑮ 范 錢叔蓋



⑲ 樊 吳昌碩



⑦



⑧



⑫



⑭

「曼寿」があり、元別人の所刻であったが、その印面が磨去されて款のみ残っていたものに吳昌碩が再び刻したものである。この場合先人に敬意を表し、その款より下方に自分の名を款する方が礼儀であろう。(先人の款の位置にもよるが) ⑫「休厂重作」。

⑮は製。製または制とする場合もある。⑯「休厂製己丑」私の友人の刀匠 河内国平氏などは、「私は、心で刀を打つんだ」と言っていて「想」このような字を使っている。我々篆刻家もこの位の気合いが必要であろう。

⑲は手製。手ずから製す。⑦「休厂手製」手刻という例もある。⑩は「篆刻」これは篆してこれを刻したものの意。以前私は、在日西洽印社社員の陳茗屋氏と合作を数回製したことがある。この場合、側款にはお互いに次のように刻しておいた。陳氏が布字し、私が刻した場合。「茗屋篆井蛙刻」またその逆で私が布字し陳氏が刻した場合は「井蛙篆茗屋刻」これは「井蛙書茗屋刻」とする例もある。

⑭は「缶道人篆」刻を省略したいい方。⑦「蛙道人篆」

②③は鑿、刊。共にほる、きざむの意。③「休厂刊己丑十月」また鐫、彫、刀などを使用する



⑳ 熙載平生珍賞 吳讓之



㉕ 吉石 吳昌碩



㉔ 樊穀 吳昌碩



㉓



㉚



㉛



㉜



人も多い。②④の治石は、また治印ともいい、刻印の意味。④「休厂治印」で略して②のように「缶道人治」とも刻す。これは文字のバランスを考えたのか？私なれば「蛙道人治」となる。この他に「製印」「作印」「奏刀」などの例もある。めずらしいところでは、「走」「走刀」という言い方をすると在日の馬景泉氏が言っていたが私は古人のその例を見たことがない。②「己丑十月休厂走」

さて自刻自用の場合はどうであろう。よく無款の印があるが自刻自用の場合は無款にする場合があるので注意したい。自刻自用の姓名字号印の類いは印面にすでに誰であるかを明記してありその重複を避けて②のように自刻とのみ刻するのがよい。あるいは、年代を決定するためにも「〇〇年刻」だけでもよい。あえて自分の号を入れたければ印面に用いたものと異なる号を刻する方がよい。「井蛙」という印の側款に「休厂自刻」とすれば雅味があろう。

(次号につづく)

各印社活動 トピックス

第十五回齊平展



十月五日〜七日
大阪くらしの今昔館で開催した。
今回は、本会早期会員の松永白洲先生の生誕百年を記念して併催展示した。巨大かつ豪快な作品群に、懐

かしく当時を偲んだ。

また連日、白洲記念館々主松永永明氏長女で本会々員の古野燕安氏・眞鍋井蛙代表によるギャラリートークも開催した。

テーマ展示は、今回も全員同一の葉書額で寿字を含む語句印を各自が自由に発表した。

第十六回展も同会場で十月四日〜六日を予定しています。ぜひご高覧下さい。(東尾高岳)

第二十七回畦石舎作品展



十月六〜七の

両日、京都岡崎の日図デザイン博物館において、第二十七回畦石舎作品展を行った。関西はもとより遠く関東からも態々沢山の

で、何とか展覧会の体を整えたかとホッとしている。刻印はもとより、側款拓や書画の書き込み等を貼り合わせることなく一枚の紙で仕上げることを課しているが、少しずつではあるがその効果も出つつあるのを喜んでいる。
今後は皆さんからお聞きした御意見を胸に、更に高く深く広く追求して行きたいと願っている。(小朴圃)

不華篆会習作展XX



不華篆会習作展
xxを平成二十四年十一月二日から四日までの三日間、伊丹市立工芸センター1B展示室で開催した。
今回は二十回展という記念すべき

展覧会で、「和」をサブテーマに、生活の中の書・篆刻として、会員二十人がそれぞれオーソドックスな篆刻作品と工芸的な手法を用いた作品を出品、さらに記念として各人が手作りした「舍利禮文」印譜を特別展観した。

オーソドックスな篆刻作品のほか、陶芸、木工、彫金、組細工、グラスデコ、鉄筋加工、紙細工等の工芸的作品だけでなく、印材・印袴・和綴じ本も出品されバラエティに富んだ展示になった。毎年この工芸的作品には苦勞するが、来場された方々から「毎年、楽しみにしています」とのお言葉もいただきたいへん励みになっている。

また巡回展として同十三日から二十五日まで



した側款に注意した。観覧者もこの側款に興味をもたれた方が多く、どのようにして採る物なのかとか、鑑賞のポイントなどを質問していた。

机上展示は「日

本各地八景分刻」で金沢八景などを二寸程度に分刻した。「金沢八景つて金沢じゃなくって神奈川なんだね。」など八景について勉強にもなった。展示された石の中には篆刻用の石以外に自然の石に彫り込んだ力作もあり、印箋に押された印影と共に並べて展示した。側款が彫られ拓を採った展示に格調高い雰囲気になった。

総来場数は四二五人で、今回も「作家さんに会うのを楽しみにしていた。」という方もあり、担当の日が違くと聞くととても残念そうにしている方もいた。

最終日搬出後の反省会と親睦会では、次回展に向けて、より良くしたいという前向きな意見がたくさん出て、とても頼もしい感じがした。(竹村美智子)

第六回寧和展書・篆刻展



一月二十五日から二十七日まで奈良文化会館にて寧和展書・篆刻展を開催した。

今回は「甲骨」近現代の篆書「初歩の篆刻」と称し

第十二回関中印社篆刻・篆書展



関市の中心街に位置する関市文化会館を会場として二月二十一日から二十四日までの四日間開催した。初日には開場式があり関市長・県議会議員・市議会議員・教育

委員長・文化協会役員など多くの関係者とともに平田蘭石主宰がテープカットをしてお祝いをした。

この展覧会は関中印社が隔年に開催する作品展であり、関市、岐阜市、羽島市、名古屋市、東京都など全国十カ所の平田蘭石先生の教室に所属する会員のうち六十三人の篆刻と篆書の作品計八十七点が展示された。

展示された作品はどれも字の形という既成概念にとらわれず、印や台紙の余白の美にこだわった作品ばかりで熱心に見入って鑑賞されている姿を多く見受けた。文字は線の芸術でありそれぞれの線を楽しんでと先生が熱心に説明されていた。

また、今回のテーマであった『糸印(十五世紀に中国明からの生糸取引に使われた印)』を模刻した作品も四十八点出品され、文字や図案の妙を味わう来場者も賑わった。

会期中には祝賀懇親会が開催され、来賓の先生方からは、激励の言葉と講評をいただき、今回の作品制作に大変参考になった。地元はもとより、関西、北陸方面からも駆けつけていただき、四日間で約六五〇人の来



茨城県 古河市から 感謝状
 「古河市新春の集い」で日本篆刻家協会に古河市から感謝状が贈られた。これは本協会の古河市篆刻美術館での役員展の開催作品寄贈などに対してのもの。理事長の代理として酒居石荘代表理事が出席し受領した。

茨城県古河市公式ホームページより http://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/06renewal/kouhou/13_03_01/kouhou/12.pdf

古河市新春のつどい

新年を祝う「新春のつどい」が、2月15日、生涯学習センター総和「とねミドリ館」で開催されました。参加者は議員、各種機関・団体の役員など約550人。式典では、市長のあいさつの後、来賓の祝辞。そして、市政功労者11人の表彰や、市の公益のために金品などを寄付された8人への感謝状の贈呈を行いました。その後には全員で乾杯。会場内の談話は、最後まで和やかに繰り広げられました。



▲会場にはたくさんの参加をいただきました



▲あいさつをする菅谷市長



▲功労者に表彰状の授与



▲寄付をされた皆さんへの感謝状

前号での発表に漏れと誤記がありました。お詫びして追記訂正します。

第二九回読売書法展
 特選
 葭岡慶石
 秀逸
 射場少藍 大庭景雲 阪口香雪
 丹下青風 中島大夢 稲垣華扇
 瀧上紀翠 今村董圃 加藤正順
 廣田笙鶴

第五八回全関西美術展
 第二席
 藤澤涼子

展覧会成績

第四回日展

入選
 山下方亭 井谷五雲 真鍋井蛙
 喜多芳邑 古溝幽畦 南岳泉露
 中村葉舟 永井龍法 関踏青
 竹内立女 堤白遊

特別展示と実演を試みた。まだまだ力不足ではあるが会員作品四十七点の発表となり、偶然、奈良教育大展会場・日程とも重なり先輩諸氏、学生諸君の来場となり賑わった。協会の皆様にも多くご来場していただき厚く御礼申し上げます。(喜多芳邑)

青鏡忘詠(六)

小朴圃

「虚と実」

刻線をどのように処理するかは常に我々の頭を悩ますところであるが、対照的な二家について考えてみたい。

荃廬刻「文字禅」、撃辺による虚線の表現が美に自然で、虚と実で幅の広さを感じさせるものとなっている。これらの消えた線も元は全て刻してあり、それを細心の注意と感性とで撃辺を加えていく。全体に荃廬刻の印面を見ると、虚線もわずかに凹ませてあるだけなのが常で、そこにある多くの刀痕の数に荃廬の緻密さを思うこと屢である。

一方、正平刻「詩情画意」これは実際に掌にしたのだが、画字の最下横画の実線をざっくりと殺ぎ落とした鬼気迫るばかりの刀痕の衝撃は未だに記憶に残っている。

方法は違えど、これらの虚実の表現を入手して作品の幅を拡げたいものである。



河井荃廬刻「文字禅」



山田正平刻「詩情画意」

場があり、多くの人に鑑賞いただき会員にとつて大いに心の励みとなった。(後藤黄太郎)

方々に御来駕御高覧いただき、紙面を借りて御礼申し上げます。

当展は一部企画物を除いて他は全て各個人の制作に任せているので、陳列するまでは果たしてどんな作品が集まるのか、数や質は観ていただくに値するかどうか、いつも不安の中で作業になるのだが、会員の意欲が大作になったり、又小作ながら見応えのあるものもあつたり

第二十一回 遠邇篆会篆刻展

十一月十三日から十八日までクリエート浜松展示室で開催した。テーマは自由であったが、全員が今まで研究会や特別講習等で勉強

で、丹波市の兵庫県立丹波の森公苑展示ギャラリーにて同内容で開催した。(内田真弓)

展覧会案内

- ▼随風會(山下方亭)
第二八回随風會篆刻展
会期 四月二日～七日
会場 京都市美術館別館
参考陳列 近代中国印人の篆書・印・印譜
尊舜閣新獲青銅器
- ▼第二九回日本篆刻展
会期 五月十四日～十九日
会場 大阪市立美術館 地下展覧会室
特別展観 殷周秦三代の文字
- ▼稲香印社(梶田稲州)
第五回稲香印社展 篆刻と書と陶
会期 四月二十三日～二十八日
会場 名古屋市民ギャラリー栄
- ▼越思篆会(天村高陵)
越思篆会・富山市民大学篆刻同好会
合同作品展
会期 七月五日～七日
会場 富山県民会館
- ▼井谷五雲・小林圃・眞鍋井蛙
第三二回六轡会篆刻作品展
会期 八月二十五日～九月一日
会場 京都文化博物館
- ▼齊平篆会(眞鍋井蛙)
第一六回齊平展
会期 十月四日～六日
会場 大阪くらしの今昔館
- ▼畦石舎(小林圃)
第二八回畦石舎作品展
会期 十月五日～六日
会場 京都市日岡デザイン博物館
- ▼好日会(田中緑翠)
第一八回好日会書・篆刻展
会期 十月十八日～二十二日
会場 中電岐阜ビル・パレットルーム

協会行事

- 常務理事会
十二月一日(土) 梅田「八幸」
- 平成二五年度
第二回理事會
新年會
一月十四日(月) 大阪錦城閣
- 第二回理事會
平成二五年度總會
講演會
「尊舜閣コレクション―明刀に始まった―」(山下方亭常任顧問)
懇親會
二月十日(日) ホテル大阪ベイタワー
- 第二九回展審査會
三月二十三日(土)～二十四日(日)
大阪マリチャンダイズマートビル
- 予定
第二九回日本篆刻展
五月十四日(火)～十九日(日) 大阪市立美術館
- 第二九回日本篆刻展授賞式
五月十九日(日) ホテル大阪ベイタワー
- 東日本大震災復興支援
「がんばろう東北篆刻展」
五月三十一日(金)～六月二日(日)
盛岡市民文化ホール マリオス
- 第五回日本篆刻家協会役員展開幕式・実技講習會
六月二十九日(土) 古河市立篆刻美術館
- 第五回日本篆刻家協会役員展
六月二十九日(土)～八月二十二日(木)
古河市立篆刻美術館

第六回中央研究会

「中国の古印材・鑑賞と解説」
実技・テーマ「篆書を書く」
八月二十四日(土)～二十六日(月)
シーサイドホテル舞子ビラ神戸
海外交流
西冷印社創設二〇周年記念行事参加
常務理事会
十一月三十日(土)

予告

第六回 中央研究会

『中国の古印材・鑑賞と解説』
(中島春緑代表理事)
実技・テーマ「篆書を書く」

とき…八月二十四日(土)～二十六日(月)
ところ…シーサイドホテル舞子ビラ神戸
多数の参加お待ちします。
詳細は印社代表にお問い合わせ下さい。

お知らせ

日本篆刻家協会事務所担当者の勤務時間
間が変更になりました。

【新しい勤務時間】

月曜日(金曜日)
九時三十分～十四時三十分
(昼休みあり)
(時間内でも所用のため不在あり)
※土曜日、日曜日、祝祭日、第二・第四木曜日は休み

編集後記

▽ある古い冊子を見開いていると仙厓禅師の作品、柳が風に煽られている畫、それにそと「氣に入らぬ風もあるうに柳かな」と添えてある、その右に迫力ある「堪忍」の二文字。見ているとふと体調、いじめ、自殺：が頭に浮かんで来た。する方もされる方もこの二文字が不足しているように思えてならない。

家庭もしかり世の中我慢してナンボ？それを規則々々でがんじがらめにして責任逃れ：どうも腑に落ちない。

協会諸氏も堪忍して師の教えをしっかり受け止め、噛み締め、その上で自由な発想でより良い作品づくりに励みたい。

▽東日本大震災三・一一死者行方不明者一八五〇人、この三月でまる二年、亡くなられた方々の三回忌改めてご冥福をお祈りいたします。

また全国の篆刻団体一丸となつての「がんばろう東北篆刻展」が少しでも復興支援のお役に立てればと念じます。(谷庸)

編集・会報部

酒屋石莊 榊原晴夫
木村容庸 内田真弓

お気づきのこと、ご意見など
事務所までお寄せください。
FAX 072-760-3853
MAIL info@n-tenkoku.jp